

2 提出された市民意見とそれに対する考え方

※いただいたご意見を整理して掲載しています。

【第2章 教育をめぐる現状と課題】

項目	提出された市民意見（要旨）	件数	考え方
2 姫路の教育の成果と課題	10～12 ページの全国学力・学習状況調査の結果について、平均正答率については、毎年調査対象が違う為、その結果に一喜一憂する必要はないと考える。ただ、意識に関する調査とクロスして概観すると、国語、算数ともに、「大切だと思う」「わかる」と回答した児童に比して、「好きだ」と答える児童生徒が小中共通して低いことが気にかかる。各教科とも、児童生徒の興味関心を高める指導の一層の充実が求められると考える。	1	「1-1-①わかる授業の推進」事業に記載のとおり、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びを実現する中で、見通し・振り返り学習活動や言語活動を取り入れた「学習の過程を重視したわかる授業づくり」を進めるとともに、ICT機器やデジタルコンテンツ等の効果的な活用により、児童生徒の興味関心を高める指導の充実に努めたいと考えております。
	15 ページの社会教育関連施設の利用状況について、姫路科学館の平成25年のリニューアルに伴う利用の急増や、姫路美術館の平成27年、姫路文学館の平成30年などの利用増加の要因を探ることにより、一層利用推進が図れるのではないかと考える。	1	リニューアルに係るイベント等の影響など、利用者の増減には、様々な要因が考えられます。今後も、来館者アンケート等を参考にしながら、利用者数増加に努めたいと考えております。

【第3章 姫路の教育の目指す姿】

項目	提出された市民意見（要旨）	件数	考え方
3 基本目標と計画体系	学校教育はもちろんのこと、生涯学習社会の充実が必要であると思う。その点も、基本的政策に盛り込まれている点は良い。	1	ライフステージに応じた多様な学習機会を提供するとともに、生涯学習関連施設の充実や人権教育の推進を図ること、また、心豊かでたくましい青少年の育成を目指し、家庭や地域における教育力の向上を支援するとともに、青少年への様々な体験機会の提供や健全育成を促進する環境づくりなど、市民ぐるみで青少年の健全育成に努めることで、いきいきとした生涯学習社会の実現を図っていきたいと考えております。

【第4章 今後の5年間の具体的取組】

項 目	提出された市民意見（要旨）	件数	考え方（案）
2 今後の5年間の具体的取組	<p>教育は「こころ」を培うことが大きなテーマであり、学力は、この「こころ」を培う手段である。「こころ」を培う教育の創造について、私なりに考えた意見を五つ申し上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育」を推進する。食材の自給自足を体験させ、実際に調理して命をいただくことは、人が生きていく基本であることに気付かせる。 ・「衣育・住育」を推進する。衣服や住まいが出来上がる工程を体験するなど、ファッションや建築に興味関心を持たせる学習を通じ、美しいものにあこがれる「こころ」を追求する。また、インテリア業界やアパレル業界の見学などを通じ、消費者としての目を養う。 ・「木育」を推進する。子供の頃から木に触れ、木で何かをつくることを通して、木の文化等を伝えていくことができる。森林・林業・林産業の現状を把握し、地球環境保護問題にも関心を持たせながら、地域経済の活性化について学習を深める。 ・「木育」をつなげる。製紙工場の見学からはじめ、書籍出版業界の仕組みや本ができる工程を学び、実際に自給自足で絵本などの作成を行う。また、学校の図書室には、子供たちの希望を優先した蔵書を増やせるように予算に計上する。 ・教員研修としてボランティア活動を取り入れる。例えば、農業体験や酪農体験、災害復旧ボランティア活動、林業体験、水産業体験をし、ボランティア精神を養うとともに「食育」に活かす。 	1	<p>「施策1-2『豊かな心』の育成」の目的に記載のとおり、教育活動全体を通じて、子供たちの豊かな情操や道徳性を養うとともに、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、人間関係を築く力、自然を大切にす態度等を養っていきたいと考えております。</p> <p>御意見にございます食育、消費者教育、環境教育などにつきましても重要であると考えており、学校教育全体を通して推進していきたいと考えております。</p> <p>また、学校図書館につきましても、図書の充実を図ってまいります。</p> <p>さらに、県教育委員会主催の「東日本大震災被災地派遣」への参加を呼び掛けるほか、本市ではその派遣に参加し学んだことを研修の中で発表する機会を設けるなど、引き続き、教員研修としてのボランティア活動に取り組んでいきたいと考えております。</p>

	<p>26 ページの「1-1-①わかる授業の推進」において、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた」とあるが、「実現に向けた」という表現では、それがゴールのように感じてしまう。ゴールはあくまで「資質・能力の育成」だから、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改革」により資質・能力を育むという明確な姿勢を言葉で示す方がよいと考える。</p>	1	<p>御意見のとおり、「わかる授業の推進」につきましては、「主体的・対話的で深い学び」の実現がゴールではなく、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けて、取り組むものと考えております。このことについて、「1-1-①わかる授業の推進」事業の文章を修正します。</p>
	<p>「政策1 魅力ある姫路の教育の推進」の「施策1-1 『確かな学力』の育成」で、「1-1-③理数教育の充実」と「1-1-②外国語教育の充実」の順番を入れ替えるべきである。今から日本が必要となるのは、物づくりであり、再生エネルギーを推進していくことだと思う。しっかりしたものを作れる者や新しい技術を開発できる者を育てることが先だと思う。英会話は、仕事に必要な一部の者だけができれば十分だと思う。</p>	1	<p>各政策における各事業につきましては、計画への記載の順番にかかわらず、取り組んでいきたいと考えております。</p>
	<p>「施策1-2 『豊かな心』の育成」で、施策の目的を達成するために必要なことは「体験活動」だと思う。また、昔の子供たちに比べて、今の子供たちに欠けている所は、人間関係を築く力だと思う。この力を付けるのに一番適したものが体験活動である。</p>	1	<p>御意見のとおり、人間関係を築く力を育成するためには、体験活動は重要であると考えております。このことにつきましては、「1-2-③体験活動の充実」事業に記載のとおり、自然体験活動などを推進し、人間的な触れ合いや自然との関わりを深めながら豊かな感性を育むとともに、福祉体験、ボランティア体験、職場体験等を実施することで、人間関係を築く基となる自主性や社会性を養いたいと考えております。</p>
	<p>「自分にはよいところがあると思う」という質問で、自尊心が測られている場合が多いが、果たしてそれだけで分かるのか。この項目の数値が高くなるのが日本人として素晴らしいのか疑問に感じられる。</p>	1	<p>指標の設定につきましては、可能な限り当該施策に係る代表的なものを挙げるように努めておりますが、設定した指標は、施策の目的の達成状況を図る目安の一つであるため、当該施策の評価に当たりましては、指標のみに拠ることなく、多角的に施策全体について行うよう努めたいと考えております。</p>

	<p>姫路市は教育委員会を軸に、幼小中高の連携は良くできているというのが、現場の実感である。これから産業界との連携が充実すれば、更に力強い教育が進むと思う。</p>	1	<p>市立高校では、「ちいき魅力発見バスツアー」や「企業・大学・学生マッチング」の参加を通して、地元の企業や大学との連携を図っているところでございます。幼稚園・小学校・中学校についても、「トライやる・ウィーク」や商工会議所との連携等により、学校と企業が連携・協働した教育活動の充実を図っていきたいと考えております。</p>
	<p>31 ページの小中一貫教育の推進について、本中学校区では、市が作成を進めている「つながりカリキュラム」を受け、「中学校ブロックブランドカリキュラム」を作成し、資質・能力を中心としたコンピテンシー・ベースの授業改善の指針とするなど効果的に取組を推進することができている。今後とも、市で基本構想・基本理念を明確に示し、各ブロックが具現化するというスタイルを継続・発展いただきたいと考えている。</p>	1	<p>本市小中一貫教育の基本構想や基本理念を全市的に共有した上で、各中学校ブロックがそれぞれの特色に応じて取組を進めているところでございます。今後は、冊子「姫路市の進める小中一貫教育」に加え、令和2年3月に作成する「姫路市小中一貫教育つながりカリキュラム」を活用しながら、更なる小中一貫教育の推進に努めていきたいと考えております。このことについて、「1-4-②小中一貫教育の推進」事業の文章を修正します。</p>
	<p>31、32 ページの就学前教育の充実と保幼小連携も、カリキュラムの整備、更新を含め進んできている。今後、高校との連携も含め、就学前から、高校まで、そして、その先までも見据えた生涯にわたってのキャリア教育の視点を持った一層の充実が望まれると考える。そのためにも、教職員の意識改革は重要かつ喫緊の課題であると考えている。</p>	1	<p>御意見のとおり、教職員が、子供たち一人一人が生涯を見据えて学ぶことや働くことの意義を見出し、充実した人生を送るために必要な力を育むといったキャリア教育の視点を持って、異校種間連携や就学前教育を行っていくことは重要であると考えております。引き続き、各学校における校内外研修会等において、こういったキャリア教育の視点の周知を図るなど、教職員の意識改革を図っていきたいと考えております。</p>

	<p>姫路市の教育の良い点は市立幼稚園が充実していることだと思う。今回の振興基本計画案にも「就学前教育の推進」が施策に入っていることは評価できる。</p>	1	<p>「施策1－5就学前教育の推進」に記載のとおり、幼児一人一人の発達の特性に応じた質の高い教育を提供する教育環境の整備や、家庭教育への支援を充実させることで、幼児期において、子供たちがより良く生きるための基礎を獲得し、心身ともに健やかに成長することができるようにすることを目的として進めていきたいと考えております。</p>
	<p>地域にある公教育の場である公立幼稚園の良さを十分把握しながらも、入園できない大きな理由は保育時間の短さである。多くの保護者が公立幼稚園の預かり保育実施を希望しており、これらの状況を解決するためには、市教委による公立幼稚園の体制の改善なくしては実現できないと考える。社会の実情を反映し保護者のニーズを受け止め、入園を望む全ての保護者が選択できるように、公立幼稚園全園に預かり保育と3歳児保育が早期に実施される体制づくりを切に希望する。</p>	1	<p>3歳児保育につきましては、幼児教育・保育の無償化対策として、令和2年度から8園において実施したいと考えております。</p> <p>今後も、「姫路市子ども・子育て支援事業計画」に基づき就学前教育・保育施設全体で提供体制を確保していく中で、保護者ニーズ等を踏まえて、3歳児保育や預かり保育など市立幼稚園における教育の充実のための方策を検討していきたいと考えております。</p>
	<p>無償化に伴い、3歳児の教育・保育を希望される方も増えている。計画案にあるように、市立幼稚園での受入れや預かり保育の実施が開始されると、待機児童の解消や保護者のニーズに応じたサービスが提供されることになり、保護者や幼児の利益にもつながるものと思うので、市立幼稚園における教育・保育の充実を希望する。</p>	1	
	<p>公立幼稚園の3歳は募集人数が20人を超えると抽選になるが、希望者全員入園できる方が良い。</p> <p>また、保護者のニーズに寄り添い、公立幼稚園の預かり保育導入に向けて、教育・人員・施設等検討していただきたい。</p>	1	

	<p>「生きる力」を育む上で、国も重視している「特別支援教育の推進」の施策が第1期振興基本計画に比べ重視されていることは良いことである。</p>	1	<p>個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用並びに医療、福祉、労働等の関係機関との効果的な連携により、特別な支援を要する子供一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を充実させ、その自立と社会参加の実現を図ることを目的として進めていきたいと考えております。</p>
	<p>35ページのキャリア教育の推進について、兵庫型体験教育やキャリアノート、キャリア・パスポート等を活用した具体的な取組が展開されていることは大変有効であると考えます。ただ、学校現場においては、それを作成すること、つまり、手段が目的化することなく、その先にある目的、ねらいである「子供が将来の目標を持ち、その能力・適正や興味関心等を生かし、主体的に進路を決定できる能力や態度を養う」ということを見失わないようにしなければならないと考える。</p>	1	<p>キャリア教育を推進するに当たりましては、ものづくりの場の見学や「トライやる・ウィーク」などの体験活動を実施することにより、社会に触れる機会の充実を図ることのみを目的とするのではなく、事前・事後指導を充実させたり、キャリアノートやキャリア・パスポートを校種を越えて継続的に授業等で活用したりすることで、本来の目的に迫ることができると考えております。</p>
	<p>40ページの「2-1-③外国人児童生徒等多様な教育ニーズに対する受入れ体制の整備」に「義務教育未修了者や外国籍の者等に対して、教育機会を確保する対策を検討する」とあるが、対策を検討するのみでなく、今後5年間の整備を希望する。</p>	1	<p>義務教育未修了者や外国籍の者等に対して教育機会を確保するための整備等について、まずは、県とも連携し、その対策を検討していきたいと考えております。</p>
	<p>教職員の時間外労働の多さが社会的に問題になっており、この問題への対応は急務だと思う。将来を担う子供たちを育てる教員には優秀な人材の確保が必要であり、そのためには教師という職業が魅力的でなければならない。現状のままでは、教師という職業が若者から敬遠され、人材が集まらなくなる。教職員の増員、部活動の顧問、コーチの外注化等で教職員の負担を軽減する施策を早急に実施してほしい。</p>	1	<p>御意見のとおり、教職員の時間外労働に係る問題への対応は急務であると考えております。 このことにつきましては、「2-1-⑥働き方改革の推進」事業に記載のとおり、会議・学校行事等の縮減・精選や、ICT活用による校務・業務の効率化及びデータの共有化を推進すること、また、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフや部活動指導員等の外部人材の活用により、人的支援を充実させることで、教職員の負担軽減を図っていきたいと考えております。</p>

	<p>デジタル化等を活用して、教師の事務作業量を軽減させ、生徒一人一人と向き合う時間の確保ができる体制の充実が課題であると感じている。</p>	1	<p>御意見のとおり、教師が生徒一人一人と向き合う時間を確保できる体制の充実は重要であると考えております。</p> <p>このことにつきましては、「2-1-⑥働き方改革の推進」事業に記載のとおり、会議・学校行事等の縮減・精選などにより教職員の負担軽減を図るとともに、「2-2-①教育の情報化の推進」事業に記載のとおり、統合型校務支援システムの運用など、ICTを活用した校務・業務の効率化及びデータの共有化を推進することで、児童生徒と向き合う時間を確保し、指導の充実を図っていききたいと考えております。</p>
	<p>学校司書の配置や冷暖房の整備など、姫路市立高等学校の教育環境はここ数年で大きく改善されてきたことを実感している。さらに、全教室へのプロジェクター付きのホワイトボードの設置や生徒が使用できるPCやタブレットと合わせると約50台が整備され、注目されている探究活動も大いに進めることができている。この分野はまだ進化が予想され、求められる能力もより高くなるので、引き続きの充実をお願いしたいと思う。</p>	1	<p>先端技術を活用した質の高い教育環境を実現するため、文部科学省の示す「GIGAスクール構想」等を注視しながら、ICT機器及びネットワークシステムの整備を、今後も継続的・計画的に進めたいと考えております。また、子供たちの情報活用能力等を育成するため、ICT利活用に係る研究や教職員研修、授業支援等について総合的に推進したいと考えております。</p>
	<p>ICT機器の充実や学校図書館の充実等、他市町の取組よりも優れている点がたくさんあると思う。児童生徒への指導への効果もあるので、その点を計画案に盛り込み、姫路市の教育をアピールしてもよいのではないか。</p>	1	<p>ICT機器の充実及び学校図書館の充実につきましては、どちらも計画に記載しておりますが、「姫路きょういくメッセ」等の機会を通じて、学校園の取組等について広報していききたいと考えております。</p>
	<p>子供にとって読書はとても大切なことである。「2-2-④魅力ある学校図書館づくり」にもあるように、学校司書をさらに増員し、学校の中での読書環境整備に取り組んでいただきたい。</p>	1	<p>今後も、国が示す第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」により、1.5校に1人の学校司書の配置を目指し、読書環境の整備を図っていききたいと考えております。</p>

	<p>42 ページの学校と地域等の協働体制の確立について、新学習指導要領に掲げられる「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校教育も大きく意識改革を行う必要があると考える。これからは、学校と地域等でねらいを共有しながら取り組むことが肝要になると思われる。そのためには、教職員のカリキュラム・マネジメントの一層の充実が図られなければならないと考える。</p>	1	<p>御意見のとおり、今後、更に学校と地域の連携協働を図りながら、カリキュラム・マネジメントを充実することが重要であると考えております。</p> <p>このことにつきましては、「1-7-①カリキュラム・マネジメントの推進」事業に記載のとおり、学校園内外の人的・物的資源を効果的に活用しながら、教育課程の編成・実施・評価・改善を核としたPDC Aサイクルを確立するとともに、教育活動を横断的・組織的・計画的に行うことで、充実を図っていきたいと考えております。</p>
	<p>姫路科学館は見どころが多く、来館者が満足感を得られる施設だと思う。プラネタリウムで良い作品を上映しているので、広報ひめじに1ページの半分くらいを割いて、上映作品の紹介やプラネタリウムの効果を載せるなど、広報活動により力を入れていただきたい。</p>	1	<p>プラネタリウムをはじめ姫路科学館の事業につきましては、毎月、広報ひめじに掲載して、周知しているところがございますが、今後も、そのほか、テレビ・ラジオ・ホームページ等各種広報媒体も活用して、更なる情報提供の充実に努めたいと考えております。</p>
	<p>45 ページの「施策3-2多様な学習機会の充実」の「科学教育の充実」について、姫路科学館では、「体験」を重視した多様なプログラムを用意して広報、啓発、実践が図られている。学校教育との一層の相互連関を図るためには、単に、プログラムを利用するとか、イベントに参加する等の発想を超え、学校と姫路科学館で願いやねらいを共有し、一層の相互連関が図れるよう推進し、その教育的資源が生きて働くよう、有効に活用していくべきであると考えている。</p>	1	<p>学校利用ガイドブックの作成、活用等を通じて、姫路科学館が持つ教育資源を学校が有効に活用できるよう、学校と姫路科学館とで連携しながら取り組んでいきたいと考えております。</p>
	<p>「3-2-④図書館サービスの充実」にもあるように、子供たちへの働きかけや蔵書の整備にもどんどん取組を進めていただきたい。</p>	1	<p>様々な年齢の子供たちのために、図書館行事や展示、図書案内等の働きかけを充実させていきたいと考えております。また、その基盤となる蔵書についても、更に整備を進めたいと考えております。</p>

	<p>図書館サービスの充実について、城内図書館や分館の生涯学習施設としての魅力も高めてほしい。具体的には、閲覧・自習施設を充実してほしい。特に城内図書館は手狭に感じる。閲覧や自習ができる机を増やすなど、市民が図書館で心豊かな時間を過ごせるような工夫をしていただけると嬉しく思う。</p>	1	<p>図書館では、あらゆる世代や立場の市民にとって、生涯学習や読書のための施設として役立つよう、蔵書や展示の充実に努めております。</p> <p>城内図書館については、今後改修工事を予定しており、閲覧スペース等の確保についても検討していく必要があると考えております。</p>
	<p>人権教育は特に重要な柱であると考えている。校区人権活動をはじめとして、様々な交流機会を通して、一人一人が尊重され、心豊かにつながる社会の実現を目指さなくてはならないと考える。そのためにも、校区人権学習会が単発的なものとして終わるのではなく、そこでの学習が、地域での交流行事に生かされたり、また、地域の交流行事等において、人権尊重の視点を踏まえたアプローチができたりと相互補完的に実践されることが望まれる。</p>	1	<p>姫路市校区人権教育推進活動は「姫路市校区人権教育推進委員会活動要項」に基づき、「差別をなくして明るく住みよいまちづくりをすすめる」ことを推進課題として実施しており、人権教育町別学習会だけでなく、地域住民の交流を進める活動なども実施しております。</p> <p>今後も、学習会や交流活動を通して住民の人権意識の高揚を図ることで、「ふれあう」「学ぶ」「発信する」を活動の柱として人権文化に満ちた社会の実現に向けた活動を更に充実させたいと考えております。</p>

【第5章 計画の推進少子化に対応した活力ある学校づくりに向けた取組の進め方】

項 目	提出された市民意見（要旨）	件数	考え方
1 進行管理等	「令和6年度目標値」が示されているが、その数値はどんな根拠があって設定しているのかが分かりにくい。	1	指標の目標値につきましては、指標が施策目的の達成状況を図るためのものであることから、令和6年度までの5年間というこの計画の期間において達成すべき数値を設定しております。

【計画全般】

項 目	提出された市民意見（要旨）	件数	考え方（案）
計画全般	第1期姫路市教育振興基本計画の事業を検証した上で、成果や課題を整理し、継続を重視しながら第2期の教育振興基本計画を立てられている姿勢に賛同する。教育には「不易と流行」の両側面がある。「不易」の部分は継続して大切に、「流行」の部分は大胆に改善しながら取組を進めていただきたい。	1	第2期姫路市教育振興基本計画につきましては、第1期計画の検証結果を踏まえつつ、社会の変化を見据えて、「流行」に対応しつつ、「不易」とも言える、知・徳・体にわたる「生きる力」を備えた人間の育成を目指して取組を進めたいと考えております。

【その他】

項 目	提出された市民意見（要旨）	件数	考え方（案）
その他	<p>保育士・保育教諭の人材育成の為、姫路市保育士・保育所支援センターにて様々な研修、講座が準備されているが、幼稚園教諭の安定的な確保については第2期姫路市教育振興基本計画（案）、第2期姫路市子ども・子育て支援事業計画（案）のどちらの施策にも記されていない。</p> <p>実際、幼稚園に復帰したくてもblankがあり、不安に思う方は多くいる。その人たちの為に支援センターに幼稚園教諭も参加できるようにしていただきたい。</p> <p>職員交流、幼稚園数の適正化、こども園への移行が施策に挙げられている以上、人材確保は同レベルの問題であり、共に取り組むべき課題と考える。</p>	1	<p>保育所・保育士支援センターでは、保育士・保育教諭の就職を支援する無料職業紹介事業を実施しており、市内の私立保育所・認定こども園への就職に向けてのマッチングの他、再就職を支援する研修を行っております。その対象は、市内の私立保育所・認定こども園への再就職を希望する保育士資格・幼稚園教諭免許をお持ちの保育士・保育教諭の方としております。</p> <p>計画に掲げる施策・事業を進める上で、必要な人員の確保は重要な課題であると考えております。今後も、関係部署と連携し、幼稚園の安定的な人材確保に努めたいと考えております。</p>
	<p>市立高校の教職員の異動について、市立の3高等学校だけでは人材の多様性が確保できず、またマンネリ化に陥る懸念がある。市立高校と県立高校での教職員の人事交流をもっと活発に行い、人事の活性化を行うことを提案する。</p>	1	<p>現在も、継続的に市立高等学校と県立高等学校間で人事交流を行っております。今後も引き続き、県と連携しながら、市と県における人事交流を実施していきたいと考えております。</p>

3 修正箇所

(1) パブリック・コメントによるもの

箇所	修正前	修正後	理由
p. 26 第4章 2 施策1-1	1-1-① わかる授業の推進 新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けて、地域や学校の実態及び子供一人一人の状況を的確に把握し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたわかる授業の実践を推進する。	1-1-① わかる授業の推進 新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けて、地域や学校の実態及び子供一人一人の状況を的確に把握し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するわかる授業の実践を推進する。	わかる授業の推進は主体的・対話的で深い学びの実現が目的ではなく、新しい時代に求められる資質・能力の育成が目的であるため。
p. 31 第4章 2 施策1-4	1-4-② 小中一貫教育の推進 「姫路市の進める小中一貫教育」の冊子を活用し、目的を持った計画的、組織的、継続的な取組となるよう、各中学校ブロック及び全市的な研究体制を充実させる。九つの目標と18の指標を設定し、検証を進める。保護者や地域住民からの理解と協力が得られるよう、小中一貫教育推進期間を設定するなど、広報活動に努める。	1-4-② 小中一貫教育の推進 「姫路市の進める小中一貫教育」や「 <u>姫路市小中一貫教育つながりカリキュラム</u> 」の冊子を活用し、目的を持った計画的、組織的、継続的な取組となるよう、各中学校ブロック及び全市的な研究体制を充実させる。九つの目標と18の指標を設定し、検証を進める。保護者や地域住民からの理解と協力が得られるよう、小中一貫教育推進期間を設定するなど、広報活動に努める。	「姫路市小中一貫教育つながりカリキュラム」が令和2年3月に完成する予定であり、小中一貫教育の更なる推進に向けて本カリキュラムを活用するため。

(2) パブリック・コメント以外によるもの

箇所	修正前	修正後	理由
p. 18 第 2 章 2 (2)	(2) 第 1 期姫路市教育振興基本計画の検証の概要 (略) しかしながら、子供の悩みに対応する教育相談窓口を設置し、専門的知識を有するスタッフによる相談の実施などの取組を行ってきたものの、不登校児童生徒数が増加傾向にあること、積極的な認知によりいじめ認知件数が増加していること、 <u>特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加し、多様化していること</u> に対して更なる取組の充実が求められる。	(2) 第 1 期姫路市教育振興基本計画の検証の概要 (略) しかしながら、子供の悩みに対応する教育相談窓口を設置し、専門的知識を有するスタッフによる相談の実施などの取組を行ってきたものの、不登校児童生徒数が増加傾向にあること、積極的な認知によりいじめ認知件数が増加していること、 <u>特別な支援を要する児童生徒数が増加し、多様化していること</u> に対して更なる取組の充実が求められる。	特別支援学級の在籍児童生徒のみならず、通常の学級等における特別な支援を要する児童生徒も増加しているため。
p. 39 第 4 章 2 施策 2 - 1	〈指標〉 「定時退勤日」の週 1 回完全実施校の割合 (%) 令和 6 年度目標値 <u>50.0</u>	〈指標〉 「定時退勤日」の週 1 回完全実施校の割合 (%) 令和 6 年度目標値 <u>100.0</u>	教育委員会において、「定時退勤日の実施校の割合の目標値が 50%というのは、教育委員会の取組姿勢に疑問を持たれるのではないか。」といった旨の意見があったため。
p. 41 第 4 章 2 施策 2 - 2	〈指標〉 学習者用コンピュータ 1 台当たりの児童生徒数 (人) 令和 6 年度目標値 <u>3.0</u>	〈指標〉 学習者用コンピュータ 1 台当たりの児童生徒数 (人) 令和 6 年度目標値 <u>1.0</u>	国において新たな方針が示されたため。

なお、このほか、字句などの誤りについては、別途訂正しています。